

地域おこし協力隊“奔走中”

地域振興係

移住定住、空き家担当の永田です。早いもので立科町に来て3年が経ちました。2020年5月から地域おこし協力隊に着任しましたので本来であればこの5月で任期満了なのですが、コロナ禍での着任であり、活動が制限されたことから1年任期を延長させて頂きまして、2024年5月まで継続して協力隊として活動していきたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

とはいうものの3年の区切りでもあるので、立科町に来てこの3年で個人的に感じたことを少しお話させて頂きたいと思っております。私は幼少期に蓼科高原に遊びに来ていたこともあり、立科町自体とても大好きで、それこそ横浜から協力隊への着任が決まった時はものすごく嬉しく、一刻も早く移住したいとさえ思ったほどでした。実際に来てみてからもとても豊かな自然環境もあり生活もしやすく、今でも変わらず大好きな町です。ですが町に来た当初は地元の人からよく「こんな町のどこがいいんだい？」と(謙遜もあると思いますが)自嘲気味によく聞かれたものでした。また、空き家の活用促進を進めていくなかでも、とても素敵なお宅にお住まいなのに「うちなんか汚くて貸せないです」と空き家を他の人に譲ることを諦めてしまう方も結構いらっしゃいました。立科は謙虚で優しい方が多くとても素敵な町だなと思う一方で、謙遜しすぎて本来持っている魅力をなかなか発信できていないのでは、とも感じました。

「人口減少と高齢化が課題」「空き家をなんとかしないといけない」「居住環境が整ってない」といった町の課題に関する文言を、皆さんよく見ると思っています。どれも切実な課題なのは間違いありません。でもおそらく多くの方は「そんなのとっくにわかっている」と感じているのではないのでしょうか。あまりに町の「課題」や「良くない所」への指摘ばかりが話題になるため、もともと地域が持っている魅力に自信をなくし、消極的になってしまっているように見えることが多々あります。外から立科町に来る人達はみな楽しみにやってくる人が大半で、とても魅力を感じていますし、その事実にも少し誇りを持って欲しいと思っております。町に訪れた時、地元の人が胸を張って地域の自慢をしてくれる方が外から来た人は嬉しいものです。そしてそのような前向きな姿勢を作るために、我々協力隊のように県外からきた人間の役割は「課題を掲げることよりも、地域が持っている魅力を“地域の人に”改めて伝える」ことなのだろうと思っております。

「地域へ愛着と誇りをもって主体的に関わる。」という意味の単語で「シビックプライド」という言葉があります。地域というのは誰かが勝手に作ってくれるものではなく、批判や指摘を投げても変わるわけではありません。地域に愛着と誇りを持ち、誰かに自慢したくなるような環境を(少しずつでも)目指すことで魅力的な地域が作られていきます。胸を張って立科町はいい町だと一人でも多くの人と言えるように、引き続き立科で活動していきたいと思っております。

●移住定住担当
永田賢一郎です。



立科町介護予防ポイント事業が始まります。

高齢者支援係

今年度も立科町介護予防ポイント事業を実施します。

本事業は65歳以上の町民の介護予防や健康づくりを推進するため、介護予防教室等に参加した人にポイントを付与し、集めたポイント数に応じて賞品と交換します。

〈対象者〉 立科町に住所を有する65歳以上の人

〈ポイント付与期間〉 令和5年4月1日(月)～令和6年3月末日

〈参加方法〉 ①新たにポイントカードの申請を行う方は高齢者支援係に参加申し込み書を提出、ポイントカードを受け取ります。
②昨年度にポイント事業に参加された方はポイントカードをお渡しします。
③介護予防教室や介護予防講座等にポイントカードを持参し参加してください。
④3月にポイントを集計し賞品と交換します。

もらえるポイント数

・介護予防教室 → 1回参加で1ポイント
・介護予防講座 → 1回参加で3ポイント

合計ポイントとそれに応じた賞品内容

①5～9ポイント → 500円の商品券
②10～19ポイント → 1,000円の商品券
③20ポイント以上 → 2,000円の商品券



【お問合せ】 高齢者支援係 88-8406 (直通) 有線2311